

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2021年09月07日

所属学部／研究科・学科／専攻	農学部
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: スタンフォード大学 現地言語: Stanford University
留学期間	2021年6月～2021年8月
留学した時の学年	4年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2021年8月15日
明治大学卒業予定年	2022年3月
<b>留 学 先 大 学 に つ い て</b>	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月中旬～11月下旬 2学期:1月中旬～3月下旬 3学期:3月下旬～6月上旬 4学期:6月下旬～8月中旬 (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	18,623
創立年	1885

留学費用項目	現地通貨 (ドル)	円	備考
授業料	6,290	679,320 円	1ドル=108 円
宿舍費		円	オンライン留学のため、以下の項目は全て0。
食費		円	
図書費		円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費		円	
現地交通費		円	( <input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		円	
保険費		円	形態:
渡航旅費		円	
ビザ申請費		円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計	6,290	679,320 円	

渡航関連		
<b>渡航経路</b>		
往路 出発地:	目的地:	経由地:
復路 出発地:	目的地:	経由地:
<b>渡航費用</b>		
①往復チケットを購入した場合 航空会社: _____ 料金: _____		
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: _____ 料金: _____ 復路 航空会社: _____ 料金: _____ ∴合計: _____		
<b>航空券購入方法</b>		
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: _____) <input type="checkbox"/> インターネット(サイト名: _____) <input type="checkbox"/> その他( _____ )		
滞在形態関連		
<b>1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)</b>		
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: _____) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ		
<b>2)部屋の形態</b>		
<input type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 _____)		
<b>3)共有部分</b>		
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン( <input type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)		
<b>4)住居を探した方法:</b>		
<b>5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)</b>		
オンライン留学のため現地に渡航はしませんでした。そのため、2019 年度以前の方の留学報告書を参照するとともに、ご自身が出願される年度に Stanford IHP の HP 上で最新の情報を取得することをお勧めいたします。		
現地情報		
<b>1)留学期間中、病気やケガをされましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)</b>		
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所: _____)		
<b>2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)</b>		
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: _____)		
<b>3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?</b>		
オンライン留学のため、3)~6)に関して特に対応したことはありませんでした。		
<b>4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)</b>		
<b>5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)</b>		
<b>6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。</b>		
<b>7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)</b>		
6月の後半に一度支払いのタイミングがあり、履修科目の変更に伴って授業料が変わった場合には7月にもう一度支払いのタイミングがあります。授業料は明治大学の方から直接お支払いいただきました。		

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
5 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:次の留学を控えていたことと最終学年での留学であったため、単位認定に要する時間とプロセスを勘案した結果、単位認定の申請を見送りました。)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) ・履修の制限はありましたか? Stanford IHP Program で開講されている科目しか履修できません。また、人気のあるコースから枠が埋まっていくため早めに手続きを済ませ、履修登録に進むことを強くお勧めします。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Principles of Economics	経済原理
科目設置学部・研究科	
履修期間	1学期間
単位数	5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	オンデマンド型の講義と週1回のリアルタイム型ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 120~180 分が 1 回
担当教授	Prof. John Taylor
授業内容	ミクロ経済学とマクロ経済学に関する基礎的な法則や知識に関する講義
試験・課題など	毎週講義内容に関する課題が課されます。試験は全3回で、3週間に1度 open-book 形式のテストがあります。決められた時間(8:00 AM ~ 8:00 PM)で都合がつく時間帯にテスト問題を各自ダウンロードし、それを 80 分以内に解いて提出するというようなテスト形式でした。講義をしっかりと受講して、課題に取り組んでいれば試験には問題なく回答できると思います。毎回テストの数日前には模試を作成してくれるので、それを解いて復習していればそれほど神経質になる必要はないと思います。
感想を自由記入	経済学に関しては一通り日本語で知識を構築しているつもりでしたが、英語力のディスアドバンテージと、同じ経済学の概念でも違う側面から説明がなされている(ような印象を受けた)ため、苦労しました。また、Taylor 先生がマクロ経済学をご専門とされていることもあり、マクロ経済学を自学自習した際には出会わなかった経済モデルを知ることができ勉強になりました。まだまだ勉強不足であることを痛感したため、本講義で得られた知識をもとに今後も経済学の勉強に励みたいと思います。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト, 書籍, 機関など

志望先大学院の HP, 現在所属しているゼミの先生との相談。

3)就職を選択した方は, 差し支えなければ内定先を教えてください。また, その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前, あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は, 差し支えなければ現時点で希望する業界, 職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず, 就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い, 留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は, 留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は, 差し支えなければ進学先を教えてください。

東京大学大学院農学生命科学研究科

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。

留学期間と大学院試験(試験勉強も含む)が被る様な場合は大学院試験に通ずるような科目を履修することをお勧めします。また, 可能ならば極力留学の時期と大学院試験の時期が被らないように留学計画や試験計画を立てた方が良いと思います。私は新型コロナウイルスの影響でなかなか留学に行けず, どうしても留学を実現させたかったため 4 年次での留学を決断しましたが, 留学と受験勉強を並行させるのは心身ともに大きなダメージがありました。最悪の場合, 大学院試験をダメにしまうリスクもあります。ただし, 国内・海外に限らず大抵の大学院試験では英語力が問われることがほとんどですので留学経験は大きなアドバンテージになります。ご自身の状況と留学から得られるもの・留学によって犠牲にしないものなど総合的に勘案した上で, 1~2 年単位で計画を立ててみましょう。

もし実留学を伴う場合は, 出国前に志望大学院の過去問や参考書など日本でしか手に入らない教材を準備して持参すると良いと思います。同時並行で様々なことを進めるとどうしてもヒューマンエラーが起きやすいので重要な期日等は手帳や To Do リストで管理をしっかりとしましょう。

7) その他を選択した方は, その進路を選択した理由と, 留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2021年 1月～3月	学内選考合格
4月～6月	スタンフォード大学 IHP 開始
7月～9月	期末試験, 大学院試験
10月～12月	留学を志す。学生留学アドバイザーの方との相談や留学計画書を見て情報収集をはじめ
2019年 1月～3月	短期文化研修(中国・深圳大学), HSK4級取得
4月～7月	TOEFL iBT Test に向けて横川先生の“TOEFL S&W Skills”に参加。TOEFL iBT 77 点取得。
8月～9月	
10月～12月	TOEFL iBT Test に向けて横川先生の“TOEFL S&W Skills”に参加。 TOEFL iBT 84 点取得, 国立台湾大学での協定留学に出願。
2020年 1月～3月	
4月～7月	2020 年度秋学期協定留学への派遣中止の決定
8月～9月	留学計画の変更。延期にしていた国立台湾大学での協定留学を辞退し, 海外トップユニバーシティ留学を志す。
10月～12月	IELTS 7.0 取得, スタンフォード大学 IHP とコロンビア大学 Visiting Student Program への出願

## 留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

この留学先を選択した理由は世界中の誰もがその名を知るような大学での講義を受講したいとの思いからでした。また、経済学の分野で著名な研究者を多く輩出しているスタンフォード大学でどのような経済学の講義が展開されているのか、純粋な興味・関心からもこの大学を留学先として選択するに至りました。世界中から集う優秀な学生と肩を並べて学習できることは、自分の世界を広げる大きなきっかけになります。それはたとえオンライン留学であったとしても色褪せることはありません。煩雑な手続きに頭を悩ませたり、同じアジア圏に住む中国や韓国の学生が流暢な英語を喋ることに驚いたり、英語での意思疎通にフラストレーションを感じたり、様々な困難に直面することでしょう。それを耐えた先に大きな成功が待っていると私は信じています。大変なことも多いと思いますがぜひ頑張ってみてください。応援しています！